

第4回 食育活動表彰

事例集



事例集の発行にあたって

平成28年度から第3次食育推進基本計画がスタートしたことから、農林水産省は、「食育活動表彰」を立ち上げました。従来の食育推進ボランティア表彰よりも表彰の対象者を拡大し、ボランティアのみならず、教育活動又は農林漁業、食品製造・販売等の事業活動を通じて食育を推進する優れた取組を表彰しています。

表彰対象の活動は、第3次食育推進基本計画の重点課題を中心に

- (1) 若い世代を中心とした食育の推進
- (2) 多様な暮らしに対応した食育の推進
- (3) 健康寿命の延伸につながる食育の推進
- (4) 食の循環や環境を意識した食育の推進
- (5) 食文化の継承に向けた食育の推進
- (6) その他の食育の推進

としています。

表彰部門には、都道府県、政令指定都市、大学等からの推薦によるボランティア部門と、自薦応募も可能な教育関係者・事業者部門の2部門を設定しています。

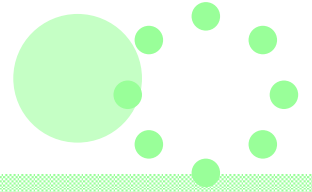
今回は186件の事例の中から、特に優れた取組を行っている7件の団体に対して農林水産大臣賞、優れた取組を行っている12件に対して消費・安全局長賞が授与されました。

受賞者の取組をまとめた本事例集は、地域で様々な食育活動を行っている方々の参考としていただけるよう作成いたしました。皆様の今後の食育活動をより一層充実したものにしていただくために、御活用いただければ幸甚です。

令和2年4月

農林水産省消費・安全局消費者行政・食育課

も く じ



第4回食育活動表彰審査委員会 委員	1
第4回食育活動表彰講評	2

受賞団体・個人の取組紹介

ボランティア部門

(食生活改善推進員)	
 榎葉町食生活改善推進員会	5
 東海村食生活改善推進員連絡協議会	6
 大阪市港区食生活改善推進員協議会	7
(大学等)	
 畿央nutrition egg チーム (畿央大学)	8
 北九州市立大学 地域共生教育センター 『食』 から学ぼうプロジェクト	9
 東京家政大学 食リンピック実行委員会	10
(食育推進ボランティア)	
 やまがた食育ネットワーク	11
 特定非営利活動法人 食生活応援団ベジフルバスケット	12
 特定非営利活動法人 眞知子農園	13

教育関係者・事業者部門

(教育等関係者)	
 京都市立高倉小学校	15
 北海道大学大学院農学研究院・北海道新聞社編集局	16
 竹村 久生	17
(農林漁業者等)	
 南島原ひまわり村	18
 石坂ファームハウス	19
 季の野の台所	20
(食品製造・販売者等)	
 生活協同組合コープおきなわ	21
 合資会社 野田味噌商店	22
 小樽商工会議所「知産志食しりべし」プロジェクト	23
(地方公共団体)	
 岡崎市食育推進会議	24

第4回食育活動表彰 審査委員会 委員

秋 田 昌 子 すみだ食育goodネット 顧問

黒 谷 伸 一般社団法人 全国農業会議所 情報事業本部長

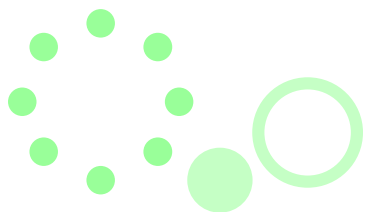
田 村 知 香 子 株式会社 共同通信社 情報事業部 担当部長

中 嶋 康 博 東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授

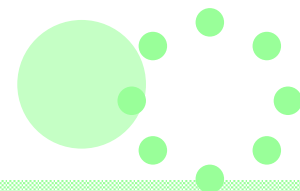
東 四 柳 祥 子 梅花女子大学 食文化学部 食文化学科 准教授

山 本 妙 子 神奈川県立保健福祉大学 名誉教授
公益社団法人 神奈川県栄養士会 副会長・常任理事

敬称略：50音順



第4回食育活動表彰 講評



審査委員長

中嶋 康博

(東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授)

第4回「食育活動表彰」では、全国都道府県等から推薦された186件から、優れた19団体・個人の食育活動が表彰されたことを、心からお慶び申し上げます。

審査委員会では審査基準に基づき、先進性、継続性、有効性、波及性、実践性の5つの観点から評価をし、さらに、以下についても審査委員で熟慮を重ねて審査を行いました。

- ① 対象活動が第3次食育推進基本計画の5つの重点課題の効果的な解決に資するものであるか。
- ② “地域における食の循環”全体の中における自らの活動の目的や目標を明確にし、企画、実施、評価までに関して地域との連携を踏まえて活動を進めているか。
- ③ 教育機関としての授業プログラム、管理栄養士等の養成機関としての通常作業、また企業自身の本来業務を確認しながら、応募の活動内容が食育の観点から特別に評価できるものとなっているか。

「ボランティア部門」（食生活改善推進員）ではどれも、地域の人々を食生活改善に導いていくために、地域の特徴を活かした場づくりに取り組んでいる姿が印象的でした。「同部門」（大学等）では、受賞事例だけでなく応募された多くの大学が様々なスタイルで地域の子供たちとの食育活動を確実に進めており、食育活動における大学の役割の大きさに改めて気づかされました。「同部門」（食育推進ボランティア）におけるやまがた食育ネットワークの取組は、地域のボランティアを県全域でネットワーク化して互いに学びあう機会を創造するもので、各地の食育活動の広域な支援に結びつくことが期待されます。

「教育関係者・事業者部門」（教育等関係者）における京都市立高倉小学校は、地域と共に児童の発達にあわせた効果的な学年別の食育カリキュラム「高倉スタンダード」を開発し、それが全市的なモデルとなっています。「同部門」（農林漁業者等、食品製造・販売者等）では、地元の食の持つ魅力や力を引き出して、それを食育活動へつなげていく効果的な取組がいくつも見られました。また、「同部門」（地方公共団体）における、岡崎市食育推進会議は、多様な関係者が協働する効果的なイベントも活用しながら、子供から高齢者まで市民が幅広く参加して市が一体となるような食育の推進に取り組んでいます。

これらは第3次食育推進基本計画の重点課題の解決に資するものであり、今後のさらなる広がりが期待されます。

今回、選外となった個人、団体、企業等においても、今後の発展が期待できる興味深い取組や、特徴的な取組が数多くありました。表彰された取組を参考にしながら、今後もさらなる食育活動を推進し、来年度も御応募いただければと思います。この表彰が国民や社会への食育の推進の大きな契機になることを祈念いたします。